

あおい通信 第59号

第59号平成22年4月1日
 リハビリテーション
 デイサービス葵・編集委員会
 練馬区東大泉3-17-5
 カトウビル3F
 電話 03-3978-0919

東京江戸散歩

その拾九 - 谷根千 ③

写真・文 七海邦夫



谷中霊園には徳川家の墓もある

世評・時評

「いのちを守りたい」先の通
 常国会での鳩山
 首相の施政方針
 演説冒頭の言葉
 であった。
 どうして「守

る」とはっきり断言しな
 いか。折しも演説後日
 のある放送番組で「無縁
 社会」という番組が放送
 され、誰にも看取られず
 死んでゆくことを「無縁
 死」と呼び、その背景に
 ある現代社会の歪みを訴
 えていた。
 首相は演説中でインド
 のマハトマ・ガンジーの
 慰霊碑にある七つの社会

大罪の一つにある「労働
 なき富」をあけた。真面
 目に働いても生活してい
 けるだけの「富」さえ得ら
 れない社会をどう考えて
 いるのか？
 そしてそんな社会の背
 景に「無縁死」が急増して
 いる事を認識しているの
 だろうか。
 後期高齢者医療制度
 を存続し、普天間の移設
 問題に五月には首相自身
 が決断すると述べている
 が大問題だけに決断可能
 とは信じられないも先延
 ばしにしているから「守
 る」といいきれないのだ
 ろう。

上野桜木町二丁目
 番号から桜並木に入ると
 谷中霊園。ここは主とし
 て谷中天王寺の敷地等
 を東京府が引き継ぎ、明
 治七年九月一日谷中墓
 地として開設したもので
 ある。その後明治二十二
 年東京市に移管、昭和十
 年谷中霊園と改め現在
 に至っている。

園内は東側が全体に
 傾斜している他は平坦で
 あり、又墓域は静寂であ
 る。春には桜並木が美し
 く多くの人が出がある。
 寛永寺墓地の飛び地
 になっており十五代將軍
 徳川慶喜の墓をはじめ作
 家では上田敏、佐々木信
 綱、広津和郎、浪流父子、
 獅子文六、円地文子、色
 川武大。

徳川家の墓石



思想家マスコミ関係
 では馬場辰猪、中村正
 直、田口卯吉、福地桜痴、
 音楽界では宮城道雄、
 本居長世。

それにしても「いのち
 を守りたい」の言葉が
 空々しく聞こえてならな
 い。「人が人として尊重
 される社会の実現」は
 我々庶民の切なる願望で
 ある。
 (ヨッチャン)

美術界では横山大観、
 朝倉文夫、錦木清方、水
 野年方、川上冬彦。
 演劇界では長谷川一
 夫、稲垣浩、天津乙女、
 川上音次郎、澤田正二
 郎、花柳寿輔。

実業界では洪沢栄一、
 他に植物学者牧野富太
 郎、相撲の出羽の海(十
 五代横綱常陸山)、常の
 花(三十一代横綱)。
 政治家では鳩山一郎、
 松田秀雄(初代東京市
 長)。

他には岸本辰雄(明治
 大学創設者)、村田経芳
 (村田銃の発明者)、浅
 田宗伯(浅田鈴の元祖)、
 小平浪平(日立製作所の
 創始者)。



高橋お伝の墓

幸田露伴の名作「五重
 塔」は谷中天王寺に二年
 間住んで書いたと言われ
 るが、その五重塔は霊園
 の交番近くに礎石を残す
 のみ。安政四年(一七九
 二)創建以来、安政地震
 にも上野戦争にも関東大

震災にも東京大空襲にも
 負けずに残ったが、昭和
 二十二年、放火心中事件
 の巻き添えで惜しくも焼
 け落ちてしまった。
 萩寺宗林寺の先の小
 公園が岡倉天心記念公
 園。天心の邸跡で日本美
 術院発祥の地だ。六角堂
 の中を覗くと平柳田中作
 の岡倉天心像が詰まっ
 ている。



六角堂

明治の初めヨーロッパ
 の文明に熱中した日本
 人は自信を失い、伝統文
 化を軽視しがちだった。
 その時期来日した哲学者
 で美術研究家の米人フェ
 ノロサは、東洋美術のす
 ばらしさを強調する。こ
 れに触発されて東洋美術
 再発見の復興運動を起
 こしたのが天心で、フェ
 ノロサと共に東京美術学
 校(現東京芸大)の創立
 に加わって校長となる。

岡倉邸・美術学校跡石碑



しかし官と合わず辞職、
 やがて自らの理想実現の
 為に日本美術院をこの地
 に創設した。
 邸跡の公園はそんな
 に広くはないが「ASIA
 A I S O N E R アジ
 アは一つ」の目標を掲げ
 た。天心達の運動が日本
 の近代文化に与えた影響
 は大きい。(続く)

あおい「俳壇」

晴れやかに 橋本 廣子
 母子手つなぎ 桜みち
 ランドセル おどる背中に 花吹雪

校門の 桜が迎へる新入生

彼岸桜 泉 貞子
 尼寺の庭明るうす

夕空に 孤を描きけり 帰へる鴨

下萌えや 復元なりし 平城宮

◆編集委員会より

「あおい通信」は、皆
 様からの原稿を募集し
 ています。担当飯島迄
 お申し出ください。

利用者さんの紹介コーナー

平林 美佐子

皆さんのお仲間に入れたいただき六カ月が過ぎました。とても楽しく通所しています。どうぞよろしくお願ひします。



吉富 多喜男

生まれは赤道の南側。あちこち海外を渡り歩いて練馬にやっと落ち着きました。言葉は生活用語で多国語経験しました。



深澤 弘枝

私は交通事故にあいまして二年半になりました。事故は人ごとと思っていましたが、今は何事も自分にくる事と教えていただきました。



藤木 三千年

練馬区の体育館でトレーニングと水泳をしてがんばっています。皆さん

よろしくお願ひします。



柳田 ます子

薬に通所して皆さまとお話できてとても楽しいです。食べることで料理することが好きです。よろしくお願ひします。



木村 美代子

旧満州で入学した小学校も「薬」でした。これも何かの縁と思って即決しました。劣等生にならないように頑張ります。



井内 正夫

名前：井内正夫。七十二歳。出身地：杉並区に五十年在住。転居して練馬区に二十二年在住。趣味：水泳、卓球、輪投げ、旅行。



うちの仲間

石渡 寿子

もうすぐ桜の花が咲き始める頃です。咲き始めるのときも、散るときも綺麗に咲く花のNo.1です。さくらの辻公園の桜の見どころは、河川敷にある桜のトンネルの中を歩いているとき、まるで雪の舞い散る中にいるようです。石神井川河川敷の改修工事が現在も行われています。今後も桜の季節になったら、また桜を見る

落語

絹田 滄夫

※寄席言葉ひとくちメモ
「演芸場」とは、今、東京には上野野本演芸場、新宿末広亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場と四ヶ所ありますが、一年中落語などの演芸を興行している寄席を定席と呼び、その経営者は席亭と呼ばれています。定席では、一ヶ月を十日ごとに上席、中席、下席、と分けて興行のプログラムを組んでおり、三十一日の月は余一會といつて特別興行が行われることが多いようです。追伸 最近はお茶屋のちのホールで中堅でこ

事が出来るのでしょうか？

早く工事を終わりにして、桜の木の移植をして欲しいのですが、楽しみがなくなるのは寂しいもの

川をのぞくと、鯉、白鷺、最近になって白鳥がいるのを見た人がいたそうです。近くに農協の新鮮な野菜、お花、フリーマーケットも開催されているので散歩やお花見の途中にもお立ち寄りになるのも良いでしょう。

乙羽池(オウライ)

室田 卓子

学生の頃の遠足に必ず立ち寄る所があった。それが「乙羽池」である。佐渡のどのあたりに位置するのかまるで分からない。リュックにワラジをくくりつけて、早朝学校を出発する。鬱蒼と茂った屋敷の暗い山道を、落ち葉を踏んで登って行く。足の裏に落ち葉の下を流れる清水が冷たい。雑木林のトンネルを抜けると突然火の光が眼を射る。緑一面のなだらかな岡である。ここを大平(オオダイラ)という。昼食を摂る場所でもある。眼下はたぶん大佐渡の辺りかと思われる。海はどこまでも広い。次の行き先が「乙羽池」なのである。

風光明媚な場所ではなく、薄暗く荒涼とした唯の池である。遠足で生徒が立ち寄る位のものである。池は比較的小さく、その周りの道は狭くカヤのようなもの囲まれていた様に思う。ただ変わった事と言えば浮島があることだろう。二、三人が飛び乗るとゆらゆらと揺れる。底は全く見えぬ。島を覆っている葦の根がびっしりと底に根付いていると想像できる。

私はその底の見えない水面(みなも)を怖いと思った。今でも一人で行くことはできないのである。



山麓と大姥巖切間の小さな池です...

※寄席言葉ひとくちメモ
「色物」とは寄席で演じられる落語以外の演芸、音曲や手品、曲芸、漫才、漫談、紙切りなどをひっくるめて言う。



落語と區別するために出番表に赤い字で書いたことから色物と称したとされているが、これは近年の解釈で本来は興行の主体となる芸に対して「彩りになる芸」であるということから色物と呼ぶのだとされる。現在、落語で色物と呼ばれることはないが江戸期には講師が落語のことを色物と呼ぶことがあったという。以上おしまい

う。それ故にいつまでも忘れることの出来ない池なのである。

養友の会

新役員のご紹介

三月十八日(木)に定期総会が開催され、新年度の役員が決まりましたので、ご紹介いたします。
会長：七海邦夫、副会長：山田良子、会計：横山稔、会計監査：矢野敏郎、委員：伊藤ユリ子、山田芳子、柳生昭子の皆さんです。(敬称略)

今年度行事の予定

続く三月二十八日(日)新役員会が開催され、行事予定が決まりました。奮ってご参加ください。
カラオケ会：毎月第三金曜日、マーチン大会：五月八、十一、二月の第三水曜日を定例とし、月度は五月・吉祥寺「英葉亭」のフレンチと神代植物園のバラ鑑賞、六月：小金井公園歩く会、七月：練馬区民ホール歌舞伎鑑賞、九月：食事会(場所未定)、十月：伊豆高原「かんぱの宿」一泊温泉旅行、十一月：歩く会(場所未定)、一月：新年会(場所未定)、三月：花見を兼ねて定期総会並び食事会(場所未定)と今年は初めてお泊り旅行を実施します。ご期待ください。(事務局)

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります